

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	医療・生命薬学	分野	
学籍番号		院生氏名	西 圭史
通学キャンパス			
論文題目	医療関連感染におけるMRSA感染症とその治療 ～抗MRSA薬の適正使用に関する研究～		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt; 審査結果の要旨 &gt;</p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p><u>研究の意義・目的</u>：本研究は、医療関連感染症のひとつであるカテーテル（カテ）関連血流感染症（CRBSI）治療の適正化をはかることを目的とし、&lt;1章&gt;CRBSI治療における抗菌薬の使用法が菌血症再発に及ぼす影響、&lt;2章&gt;CRBSI治療にも使用されるリネゾリド（LZD）の有害事象である血小板減少症の発症メカニズム、&lt;3章&gt;低ナトリウム血症発症とLZD曝露との関連性について検討したものである。</p> <p><u>方 法</u>：&lt;1章&gt;血液培養陽性症例を対象に、カテ抜去のみの群（カテ抜去群）、分離菌に対し感受性のある抗菌薬が投与された群（S群）、感受性のない抗菌薬が投与された群（R群）の3群間で菌血症再発率を比較した。&lt;2章&gt;ラット多血小板血漿、ヒト赤白血球細胞およびヒト巨核芽球（MEG-01）細胞を用いてLZDによる血小板破壊、血小板の増殖、分化過程および放出過程に及ぼす影響について検討した。&lt;3章&gt;LZD血中濃度の測定が行われた症例を対象に、血中濃度-時間曲線下面積（AUC）や患者背景等と低ナトリウム血症発症との関係性について検討した。</p> <p><u>結果・結論</u>：&lt;1章&gt;S群の菌血症再発率はカテ抜去群（<math>p=0.04</math>）やR群（<math>p=0.031</math>）に比べて有意に低かった。&lt;2章&gt;LZDは血小板の破壊、血小板の増殖、分化過程に影響を及ぼさなかった。一方、LZDはMEG-01細胞において血小板放出調節因子のMLC2のリン酸化レベルを上昇させたことより、血小板放出を抑制することで血小板減少症を誘発することが示唆された。&lt;3章&gt;低ナトリウム血症発症群は非発症群と比較しAUCおよび年齢は有意に高値であった。一方、LZD投与前の血清ナトリウム値は有意に低値であった（いずれも<math>p&lt;0.05</math>）。</p> <p>2) 研究方法，論証，論文形式の適切性 本研は各研究実施施設の倫理委員会の承認を受け実施された。論証，論文形式も適切である。</p> <p>3) 知見の新規性と価値について 本研究は、CRBSI治療の適正化とLZDによる血小板減少や低ナトリウム血症の予防に寄与する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過について 審査会は令和3年1月25日に開催し、使用している語句の統一化，語句の誤り，説明が分かりにくい部分等について論文の修正を求めたところ適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問の結果 口頭試問において適切に応答した。</p> <p>4. 合否 以上の結果から，審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（薬学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	中村 裕義	
	副 査	倉本 敬二	
	副 査	清水 貴壽	